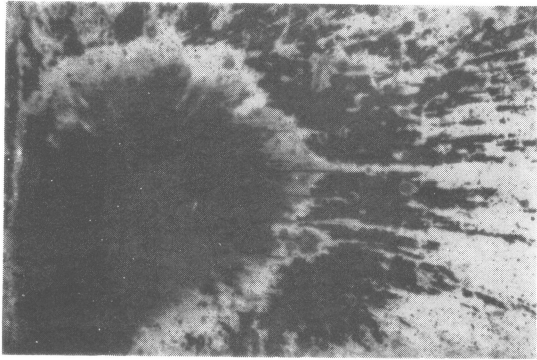


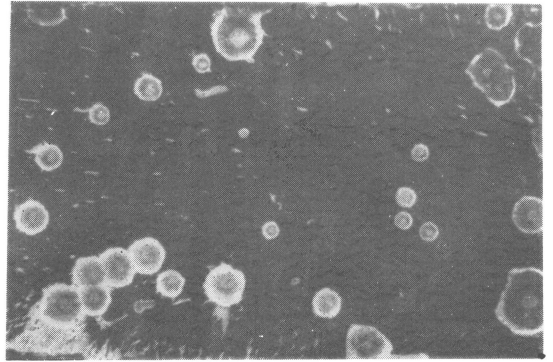
衝撃法による雨滴の記録方法 (本文361頁参照)

写真 (1) 真鍮板に酸化マグネシウムをいぶしつけた場合の水滴の記録



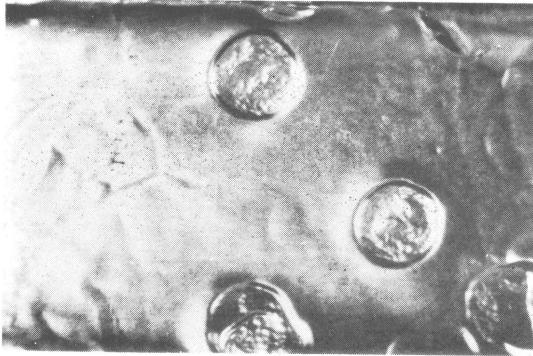
0 5 10mm

(a) 大粒による痕跡 $v=80\text{m/sec}$



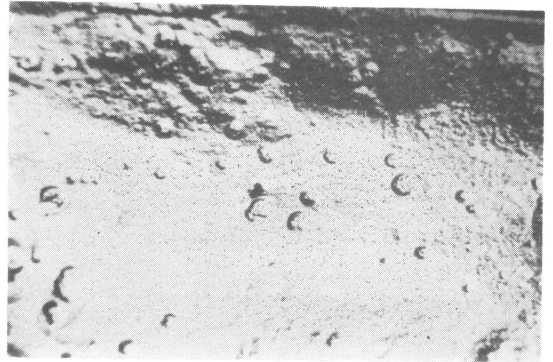
(b) 霧吹きによる水滴の記録 $v=80\text{m/sec}$

写真 (2) 真鍮板と銀箔の間にボール紙を挿入した場合の箔上の記録 ($v=80\text{m/sec}$)



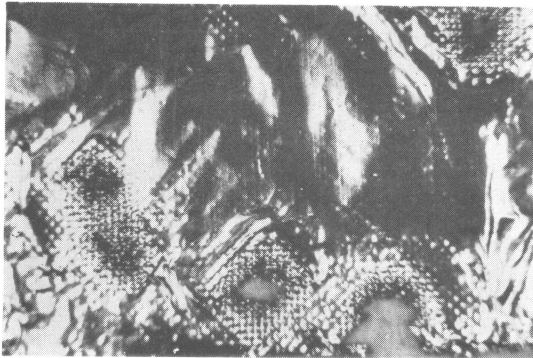
0 5 10mm

(a) 大粒の水滴による痕跡, 箔の厚さ 0.009mm



(b) 霧吹きによる水滴の痕跡, 箔の厚さ 0.007mm

写真 (3) 真鍮板とアルミ箔の間に金網 (100mesh) を挿入した場合の箔上の記録 ($v=80\text{m/sec}$)



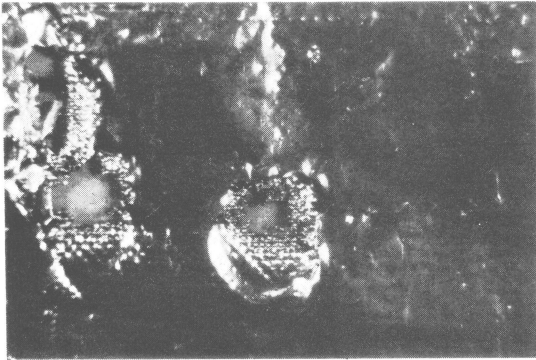
0 5 10mm

(a) 大粒の水滴による痕跡で網目 (100mesh) が粗いため箔 (0.009mm) が破損する。

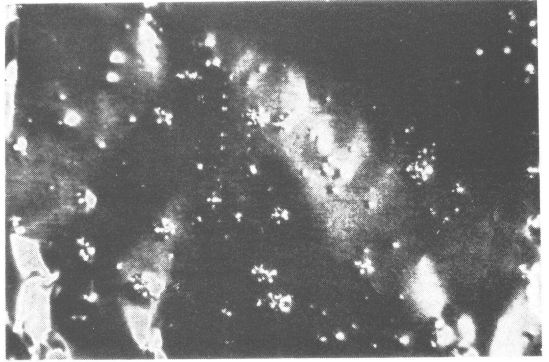


(b) 箔の厚さ (0.02mm) を厚くすると明瞭に記録する。

写真(3) 続き



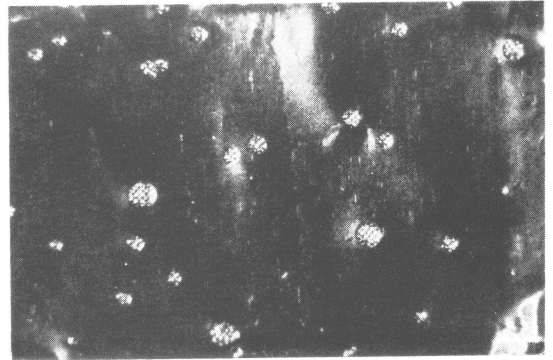
(c) 0.007mm の錫箔に大粒の水滴を衝突させた場合



(d) 0.007mm の錫箔に霧吹きによる水滴を衝突させた場合で痕跡を残すが明瞭でない。

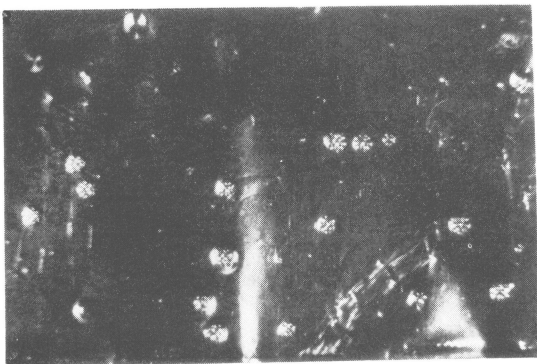


(e) 200mesh の金網を挿入した場合、大粒でも明瞭に痕跡を現わす。(0.009mm 箔)

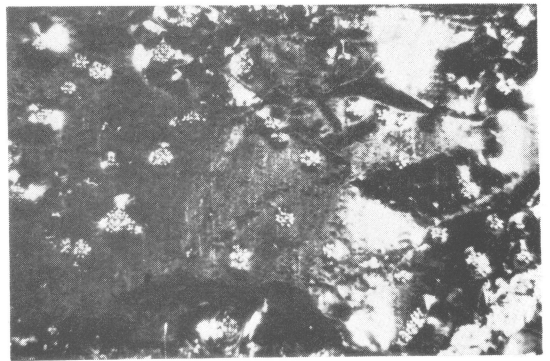


(f) 同様霧吹きによる水滴の記録で明瞭である。(0.009mm 箔)

写真(4) 自然の降水(霧雨)からの記録 ($v=80\text{m/sec}$)



(a) 325mesh 0.007mm の錫箔による記録



(b) 325mesh 0.007mm のアルミ箔による記録